

くろかわかたくれないうしろいとおどしはらまき こせいせいたつき ちょうけでんらい  
黒韋肩紅白糸威腹巻 古制背板付 長家伝来

種 別 有形文化財（工艺品）

員 数 1 領

所在地 金沢市出羽町 3 番 1 号  
石川県立歴史博物館

所有者 石川県

概 要

本品は、加賀藩年寄役であった長家（八家の一つ）に伝来し、昭和 26 年以降、行方不明となっていた腹巻である。

腹巻とは甲冑の一形式で、本品は、室町時代前期独特の整った古様を保ち、いわゆる「都仕立て」で保存状態も良好であり、当初の姿を伝える貴重なものである。背板は特色のあるもので、後年の臆病板と称する背面防御の背板と異なり、腹巻に大袖を使用するために必要な、総角の大座鐙を取り付けた装具である。立拳前後二段白糸威、長側四段のうち、一段紅糸威、他は黒韋で鉄革一枚交。草摺 5 段 7 間。肩上、胸板、押付板、脇板は藻獅子韋に、紅五星韋を伏組にして、小縁として包む。背板は二段。一段目上部に菊唐草透かし彫の四角大座に、奈良菊頭の鐙を打つ。

本品は、長家伝来というのみならず、本県に現存する最古の色々威腹巻（県指定有形文化財（歴史資料）「本多政重・正長関係資料 附 火事装束」（藩老本多蔵品館所蔵）・室町時代後期）の年代を、さらに遡る室町時代前期の優品である。また、中世能登の有力武士であった長谷部氏の後裔である長家に伝来した唯一の腹巻であるとともに、古制背板を具えた類例をみない、極めて希少な甲冑資料である。

このため文化財的価値は高く、有形文化財に指定し、その保存を図ることが必要である。